

科目名	母性看護方法Ⅱ (マタニティサイクル各期の看護) Maternity Nursing Ⅱ			担当教員 (研究室番号)	岩田 朋美 (101) 杉山 泰子 (103) 大平 肇子 (104) 市川 陽子 (105)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	3年次前期	科目区分	専門科目・生涯看護学			選択区分	必修	単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	科目等履修生	否
												オープンクラス	否
科目目的	マタニティサイクルにある女性の健康を支援するために、妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期における対象の健康の保持増進、疾病の予防、健康への回復過程について看護の目的・方法を修得する。												
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。(技能・表現)											
	関連するDP	D 様々な職種との連携において、看護専門職者としての役割を理解し、多職種による 協働活動に参加できる。(技能・表現) E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。(思考・判断)											
到達目標	1. 妊娠・分娩・産褥各期および新生児期の生理的特徴や経過判断に必要な情報について理解と各期の適切なアセスメントができる。 2. 妊娠・分娩・産褥各期および新生児期のニーズ・健康問題の評価ができ、支援の方向性について理解し、支援技術について実施することができる												
成績評価方法(基準)		筆記試験(70%)、演習課題(30%)											
再試験の有無と基準等		有：不合格者全員を再試験受験資格者とする。再試験は筆記試験のみで評価する。											
教科書		系統的看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院											
参考書等		必要時、紹介します。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待		授業は、事例を用いながら、妊産褥婦および新生児をできるだけイメージでき、看護について考えられるように実施します。主体的・積極的な取り組みを期待します。また、自己学習は必須であり、母性看護に必要な知識と基本的な母性看護援助技術の修得に努力してください。											
備考													
回	学習項目				学習内容				主担当教員	授業方法			
1回	授業の進め方 母性看護学における看護過程 妊婦の看護①				本科目のオリエンテーションを行う。 ・母性看護方法Ⅱの授業の進め方(母性看護方法Ⅱの概要) ・母性看護方法Ⅱの学習方法 母性看護学における看護過程の考え方を学ぶ。 妊婦の身体的、心理・社会的特徴について学ぶ。				岩田	講義			
2回	妊婦の看護②				妊婦・胎児の健康状態をアセスメントし、妊婦・胎児および家族の健康生活を支援するために必要な看護について学ぶ。 ハイリスクな状態にある妊婦の特徴と看護について学ぶ。				岩田	講義			
3回	産婦の看護①				産婦の身体的、心理・社会的特徴について学ぶ。 産婦の健康状態をアセスメントし、分娩進行に応じて産婦とその家族を支援するために必要な看護について学ぶ。 帝王切開術を受ける産婦の看護について学ぶ。				岩田	講義			
4回	褥婦の看護①				褥婦の身体的、心理・社会的特徴について学ぶ。 褥婦の健康状態をアセスメントし、褥婦および家族の健康生活を支援するために必要な看護について学ぶ。				杉山	講義			
5回	褥婦の看護②				ハイリスクな状態にある褥婦の特徴と看護について学ぶ。 帝王切開術後の褥婦への看護について学ぶ。 産褥期の母子の看護過程：情報の整理と全体像のとらえ方を学ぶ。				杉山	講義			
6回	新生児の看護①				新生児の身体的、心理・社会的特徴について学ぶ。 新生児の健康状態をアセスメントし、胎外生活への適応促進のための看護について学ぶ。 新生児の看護過程：情報の整理と全体像のとらえ方を学ぶ。				岩田	講義			
7回	新生児の看護②				ハイリスクな状態にある新生児の特徴と看護について学ぶ。				岩田	講義			
8回	母性看護における看護過程①				母性看護学における看護過程の展開を学ぶ。 ・提示した事例について情報を整理する。 ・関連図を作成し、全体像を理解する。				岩田	演習			
9回	母性看護に必要な看護支援の実践Ⅰ①				事例にもとづき、母子の看護に必要な基本的援助技術を学ぶ。 ①～⑥をグループごとに実施し、評価する。 ① 妊婦の健康診査 ② 胎児心拍数モニタリング ③ 新生児の全身状態の観察 ④ 新生児の清潔援助 ⑤ 褥婦の健康診査 ⑥ 母乳育児支援				岩田他	演習			

回	学習項目	学習内容	主担当教員	授業方法
10回	母性看護に必要な看護支援の実践Ⅰ②	事例にもとづき、母子の看護に必要な基本的援助技術を学ぶ。 ①～⑥をグループごとに実施し、評価する。 ① 妊婦の健康診査 ② 胎児心拍数モニタリング ③ 新生児の全身状態の観察 ④ 新生児の清潔援助 ⑤ 褥婦の健康診査 ⑥ 母乳育児支援	岩田他	演習
11回	母性看護に必要な看護支援の実践Ⅰ③	事例にもとづき、母子の看護に必要な基本的援助技術を学ぶ。 ①～⑥をグループごとに実施し、評価する。 ① 妊婦の健康診査 ② 胎児心拍数モニタリング ③ 新生児の全身状態の観察 ④ 新生児の清潔援助 ⑤ 褥婦の健康診査 ⑥ 母乳育児支援	岩田他	演習
12回	母性看護に必要な看護支援の実践Ⅰ④	事例にもとづき、母子の看護に必要な基本的援助技術を学ぶ。 ①～⑥をグループごとに実施し、評価する。 ① 妊婦の健康診査 ② 胎児心拍数モニタリング ③ 新生児の全身状態の観察 ④ 新生児の清潔援助 ⑤ 褥婦の健康診査 ⑥ 母乳育児支援	岩田他	演習
13回	母性看護に必要な看護支援の実践Ⅱ①	事例にもとづき保健指導案の作成について学ぶ。 ・退院後の母子とその家族の生活をイメージする。 ・保健指導に必要な情報を理解する。 ・保健指導案を立案する。	杉山他	演習
14回	母性看護に必要な看護支援の実践Ⅱ②	事例にもとづき保健指導案の作成について学ぶ。 ・退院後の母子とその家族の生活をイメージする。 ・保健指導に必要な情報を理解する。 ・保健指導案を立案する。	杉山他	演習
15回	母性看護における看護過程② 周産期看護の実際とまとめ	母性看護学における看護過程の展開を学ぶ。 ・提示した事例の情報を解釈、分析、統合する。 ・看護上の課題の抽出、目標の設定、具体策の立案を行う。 周産期における母性の特性を理解し、より実践的な看護支援について考える。	岩田	演習

学 習 課 題
2回目課題（事前）：妊婦の看護について教科書等を参考にしながら、自己学習する。 3回目課題（事前）：産婦の看護について教科書等を参考にしながら、自己学習する。 4・5回目課題（事前）：褥婦の看護について教科書等を参考にしながら、自己学習する。 6・7回目課題（事前）：新生児の看護について教科書等を参考にしながら、自己学習する。 8・15回課題（事前）：看護過程を検討できるよう自己学習をする。 9～12回目課題（事前）：以下の①～⑥の援助技術の実施にあたって必要な内容を自己学習する。 ① 妊婦の健康診査 ② 胎児心拍数モニタリング ③ 新生児の全身状態の観察 ④ 新生児の清潔援助 ⑤ 褥婦の健康診査 ⑥ 母乳育児支援 9～12回目課題（事後）：実施した①～⑥の演習記録を、指定の期日までに提出する。 ※上記の演習課題の記録用紙が提出されたことが前提で、記述内容を評価する（30%）。 13・14回課題（事前）：産褥期の生活をイメージし保健指導を検討できるよう自己学習する。

実務経験を活かした教育の取組
・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。